

ぶらさがり記者会見（4月20日（日））

大臣） 昨日の記者会見に前後して、シンガポールとのバイ会談を行いまして、文化分野、留学分野、青少年交流等における今後の具体的な協力についての意見交換を行いました。また、夕食の際に、ASEAN事務総長と話をしました。昨日、ベトナムの副首相が2015年を目標にASEAN共同体を作りたいということを文化大臣の方々に話をしておりまして、どれくらい進捗しているのかという話を中心に、私の方から聞きましたけれども、ヨーロッパの共同体ほどはいかないにしても、できればASEAN地域内における関税障壁と撤廃について、今いろんな課題はあるけれども、その実現に向けて努力を続けているという話がありまして、ASEAN諸国がそのような期待を2015年までにつくるという見通しがつくとすれば、日本もTPP、それから国際社会などで取り残されないような積極的な外交戦略を考えないといけないのではないかとすることは、これは文化だけではありませんが、改めて感じたところです。

夜の共同公演の際には、中国の蔡文化部長と席が隣であったこともあり、また、その反対側には韓国の代表団長が一緒だったということで、日中韓が公演を見ながらですけど、話ができたということで、文化交流から更に日中韓の連携をするようにとか、いろんなことを考えました。

今日は、この記者会見の後に、初めて、日・ASEAN文化大臣会合を行う予定です。お手元に配布をしておりますが、具体的な協力について、会合の場で私から提案し、ASEAN各国と意見交換を行う予定です。

日本の提案について具体的に申し上げますと、昨年12月の日・ASEAN特別首脳会合で安倍総理が表明した新たなアジア文化交流政策、「文化のWAプロジェクト」と連携しつつ、ASEANとの相互交流の強化、人材育成を支援するとともに、文化振興に不可欠な基盤である著作権制度の整備を支援、留学生交流を促進することなどを話し合う予定です。

昨日のASEAN+3文化大臣会合に続き、今回初めてとなる日・ASEAN文化大臣会合も、2020年オリンピック・パラリンピックが開かれるということになっているわけですが、ターゲットイヤーに向けて、アジア地域の連携強化のキックオフと位置づけ、文化芸術立国日本の実現に向けて着実なスタート、一歩にしていきたいと思っています。

記者） 昨日のASEAN+3の前後に中国、韓国の代表と話をされたわけですが、それ以外に深い話がなされたのでしょうか。

大臣） 夕食会は韓国の代表が隣で、公演は両サイド一緒でしたけれども、公演の場から、そう深いという話ではなく、公演の印象とか、雑談程度ですね。

記者） 雰囲気としては和やかに。

大臣） そうですね。

記者) 日・ASEAN文化大臣会合は日本側からの申し出で開催されたものでしょうか。これは定期化されていくという考えでしょうか。

大臣) はい。今回第1回ということで、毎回やることをしていきたいと思っています。

記者) 年1回ぐらいですか。

大臣) ASEAN+3に併せて必ずですね。

記者) ASEAN側からは文化の面で、こういう協力をしたいですとか、期待されているところはあるのでしょうか。

大臣) 今日初めて、これから会合をいたしますので、私が最初プレゼンして、1時間程度ですね、各国からいろんな提案があるのではと思いますが、昨日のシンガポールのバイ会談でも、特に日本のマンガ、アニメですね、これについての期待感がよせられていまして、人材をシンガポールにすでに派遣しておりますけれども、各国に対してもこういった日本の強みであるポップカルチャーを出していきたいと考えています。